

1 CRPが上昇しているとは？

CRPとは正常な血液中には微量しかありませんが、身体がなんらかの侵襲を受けたとき、例えば、病原体の侵入時や手術により組織が傷んだときなど、早期に肝臓で合成されて血液中で増える蛋白質です。症状の程度に比例して数値が上昇します。具体的には炎症（膠原病の活動期など）、組織の障害（心筋梗塞、肺梗塞、外傷、やけど、分娩、外科手術後）、悪性腫瘍（乳がん、消化器系のがん、肺がん、悪性リンパ腫）、感染症（特に細菌による感染症）などが生じると上昇します。

検査のはなし vol.10

専門医が教える

検査値異常を指摘された際に考えること⑧

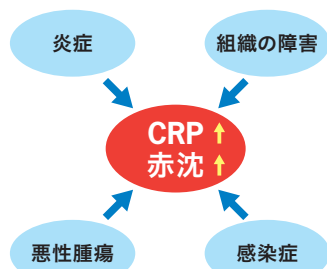
「血清CRP (C反応性蛋白) が少し高いと言われました、赤沈 (血沈) が早いと言われました」



日本臨床検査専門医会
仁井見英樹

2 赤沈 (血沈) が早いとは？

赤沈とは、赤血球が試験管の中を沈んでいく速度を測定する検査で、CRPと同様、身体がなんらかの侵襲を受けたときに早くなります。一般的にCRPが上昇する疾患（炎症、組織の障害、悪性腫瘍、感染症）では赤沈も早くなります。CRPに関係なく赤沈が早くなる疾患としては、貧血、血液の病気（高ガンマグロブリン血症、多発性骨髄腫など）、腎臓の病気（ネフローゼ症候群）などがあります。



*風邪、過度の疲労、激しい運動でも一時的に軽度上昇

3 CRPが少し高いと言われた場合

上記のように、CRPや赤沈だけでは疾患が何であるかを診断することはできませんが、主に炎症をとともう病気の有無とその程度がわかります。炎症は臨床的に最もしばしば遭遇する病態であり、組織の障害・壊死に対して身体が自らを守ろうとする防御反応です。外来で「CRPが少し高い」と言われた場合、一般成人では風邪、過度の疲労、激しい運動などで一時的に軽度上昇することがあります。感染症については、細菌感染ではCRPが急激に上昇する（感染の程度に比例）のに対し、ウイルスや真菌感染でのCRPの上昇は軽度にとどまります。ただし、新生児や老人の場合、細菌感染であってもCRPの上昇は軽度にとどまる場合があるため、注意を要します。膠原病については、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症ではCRPは正常か、あるいは軽度上昇にとどまります。梗塞については、心筋梗塞や肺梗塞でCRPが明らかに上昇するのに対し、脳梗塞ではCRPは正常か、あるいは軽度上昇にとどまります。

以上、CRPが少し高い場合は経過を見つつ、風邪症状や疲労がある場合には、症状がとれた時点で再検査します。それでもCRPが引き続き少し高い場合は、必要に応じて他の検査を組み合わせるということになります。